

(様式1)

令和元年度 目標達成計画

園所名 羽場認定こども園

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組

ここを改善・・・主これまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

教育・保育目標 ・健やかでたくましく行動できる子ども ・素直な心で受けとめ、感動できる子ども ・友だちを大切に、対等に遊ぶ子ども ・物事を深く見つめ、探究する子ども

【目標達成計画】

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価	
共通課題	・お散歩等園外での保育活動における安全対策について	・子どもが園外活動の中で安全を意識して周りの状況を知る。 ・命を守る大切さを知り、安全意識をもってルールを守る。 ・子どもの安全を守るために、保育者が行き先の安全環境を把握する。	・子どもと職員が共に把握できるように、気をつける場所を記入したお散歩マップを作る。 ・事前に子どもたちと一緒に安全に活動できるルールを決め、子ども自身が守ろうとする。 ・園外保育の下見はもちろん、当日も危険が無い確認をし、気をつける所を共通理解できるように、引率する保育者に周知し、連携をとる。 ・活動時に人数確認を行う。	・お散歩マップを作ることで、危険な場所等、共通理解できるようになり、職員の安全意識が高まった。 ・子どもが自然活動の中で安全を意識して意見を出しあったり、周りの状況を知ろうとしてきている。 ・園外保育の下見はもちろん当日も危険がない確認し、気をつけるところを引率する保育者が共通理解することで、職員同士の連携がとれるようになった。	・「園外保育時の注意事項」を見直し、職員の立ち位置・人数確認等を再確認し、全職員に配布し共通理解を図っている。園外保育の際は、事前下見とともに、当日朝にも危険がないか保育士が確認し、引率する保育士間で共有し連携をとるようにしている。子どもも、事前に遊ぶ時のルールを確認し、危機予測できるように促している。「お散歩マップ」で危険ヶ所を再確認し、落葉・水たまり等への事前対応ができるようになってきている。	
良いとこ自慢！	保育内容面	・自然環境を生かして、自然環境との関わりを深め、楽しめる活動に取り組む。 ・異年齢児との交流活動が日常の自由あそびにも自然に表れ発展している。	・ワクワクしたり、期待感をもてる活動をしたり、子どもが主体的に取り組めるようにする。 ・異年齢児と触れ合う機会を増やし、その中でお互いが、あこがれや思いやり、信頼感、自信をもてるようはたらきかける。	・四季折々の周りの自然を体感し、子どもが興味をもった自然物を取り入れ、あそびが広がるような環境構成をする。 ・異年齢児とのふれあいを深めていくために、行事以外でも自主的に他のクラスへ行って、低年齢児の世話や手伝いができる場をもつ。	・ワクワクしたり期待感をもつ活動を多く取り入れ、子どもが興味を持ったり発見した物を使って、製作や表現あそびなど主体的に取り組めるようになってきている。 ・職員間の打ち合わせを綿密に行い異年齢児とかかわる時間を確保することで、交流の機会が増え、児童に思いやりや活動への意欲が育ってきた。 ・保育者も共に関わる中で認めや共感の言葉がけが増えてきた。	・子どもたちの豊かな心の育ちを目指して、山端の恵まれた自然を生かし、子どもたちに四季折々の自然を体感できるように環境構成が配慮され、日々の活動の中に取り入れられている。 ・意図的に異年齢児でふれあう機会を増やすことで、年少の子どもたちが年長の子どもたちのマネをしたり、反対に年長の子どもたちが年少の子どもたちの世話をしたりする姿が見られ、自然な形で子どもたちの社会性の育ちを養うよう配慮されている。
	管理運営面	・パソコンなどを使用することにより、保育計画作成において負担が軽減される傾向にある。 ・クラスノートや連絡ノートの作成が、職員間の情報の共有や保護者への報告などに活用できている。	・保育者が自由にパソコンを使える状態にし、保育計画等の作成に役立つ。 ・連絡ボードをつくり、子ども状況や周知事項をすぐ書き込み、保育者がいつでも確認できる状態にする。	・週案や月案等パソコンで作成するように努める。 ・事務室にホワイトボードを置き、保育者それぞれが感染症やその他の連絡事項等を書き込み、職員間で共有できるようにする。 ・リーダー会議等の内容をクラス毎のミニ会議で伝えて、情報を共有し話し合う。	・職員が自由にパソコンを使える状態にしたことで、保育計画等の作成に役立った。 ・クラスごとにミニ会議を開き、リーダー会議等の内容や情報を共有したり、ホワイトボードの設置をしたりして、他クラスの情報や事務連絡等がわかりやすくなった。また、保護者にも掲示することで情報を共有できるようになってきた。	・パソコンを有効活用することで、保育計画等が見やすくなっていると共に、職員の負担軽減・時間短縮にもつながっている。 ・事務室にホワイトボードを設置し、各クラスの連絡事項・欠席理由等を記入して、職員間で情報共有している。各クラスの「伝達ノート」「情報共有ノート」を活用し、職員間で引継ぎ事項を共有する仕組みができてきている。 ・ミニ会議を行い、リーダー会議の伝達や検討事項等も会議録に残し、全員で共有できるよう取り組んでいる。
ここを改善！	保育内容面	・活動に応じた、保育室等のコーナー作りを工夫し、主体性を育てるための環境を作る。 ・子どもの生活環境を見直し、基本的な生活習慣を身につけるために必要な、落ち着いた環境構成を作る。	・室内環境を整備し、子どもが主体的に遊んだり片付けたりできる配置を整え、やりたいことをするためのコーナー遊びを充実させる。 ・個々の子どもたちの発達年齢に応じた環境を工夫する。	・友だちと一緒に製作をすることで、親しみの気持ちや物を大切にする気持ちを培う。 ・ロッカー設置、おもちゃの置き場変更など遊びやすい環境を工夫し、小集団でのコーナー遊びがマンネリ化しないように配慮する。 ・子どもの興味、発達に合わせて、子どもの発想や思いにあふれた遊びになるよう、環境を変化させていく。	・ロッカー設置やおもちゃ置き場の変更等で、落ち着いた空間の中で生活でき、あそびがマンネリ化せず、創意工夫して遊ぶことができてきている。 ・環境を変化させることにより、子どもが興味や関心をもち、発想を伸ばすあそびが発展するようになってきている。	・子どもたちが主体的に遊べるように、子どもたちの視点で環境づくりを工夫したり、廃材や自然物を生かした手作りおもちゃを作ったり、子どもたち一人ひとりののペースを大事にして、保育に取り組んでいる。
	管理運営面	・危機管理マニュアルの情報が多すぎて把握するのに時間がかかる。 ・食育の研修に参加し、園内研修を行い、アレルギー対策を周知する。	・危機管理マニュアルを見やすくまとめ、フローチャートをすぐに取り出し、確認できるように工夫する。 ・アレルギーの園内研修を行い、保護者と職員、調理師、調理補助員との確認を綿密に行い、子どもの安全を守る。	・マニュアルの設置位置を全保育者が確認し、誰でもすぐ取り出せるようにする。 ・アレルギーはクラス毎のミーティングで伝達し、議事録に記録して全職員の周知をはかる。 ・調理師、調理補助職員と連携し、アレルギー対応の食事が区別できるよう、皿の色を分けたり、蓋に名前を貼るなど、区別できるようにしてはいるが、ミスのないようさらにダブルチェックを徹底する。	・わかりやすいようにマニュアルの設置場所を変え、フローチャートを各自で持つことでいつでも確認できるようになった。 ・一目で見て区別でき、ダブルチェックの安全確認も、徹底することができた。	・「危機管理マニュアル」ファイルを整備し、設置場所を全職員に周知している。さらに、緊急時対応のフローチャートを抜粋したファイルを各クラスに設置し、すぐ取り出せるよう工夫している。 ・アレルギー児については、保護者と連絡を密にすると共に、全職員で情報を周知し、調理師・調理補助職員・保育士が連携し、誤配膳・誤飲食のないようダブルチェックを徹底している。園内研修を実施し、アレルギー対応について理解を深める機会を設けている。